

# 第20回国際動物繁殖学会

## ICAR 2026

20th International Congress on Animal Reproduction

June 22<sup>nd</sup>-26<sup>th</sup>

# OBIHIRO

## Hokkaido, Japan

### ICAR 2026

Obihiro Japan | 20th International Congress  
on Animal Reproduction



### プレシンポジウム 「乳牛への肉牛受精卵移植」 ウシの繁殖に関する研究と技術進歩が畜産業に与える影響

第20回国際動物繁殖学会のプレシンポジウムに市民の皆様を招待します  
国際学会の雰囲気や講演と議論のスタイルなどが見られる滅多にない機会です

### 2026年6月22日（月）

13:00~16:30（途中休憩あり・入退室自由）

### 帯広市市民文化ホール（大ホール）

帯広市西5条南11丁目

参加費：市民大学講座へお申込みいただいた方は無料

#### 講演のテーマ

肉牛の体外受精卵を乳牛の母牛に移植して、生まれる子牛は肉牛（和牛）、産んだ母牛はその日から大量に乳を出す（牛乳）、という経済効率が良い新しい生産システムと技術です。道内・十勝でも多くの生産現場で普及しています。

当日は4名の研究者が講演します。講演者のうち2名は、アイルランドからの国際的な研究者で、一般向けにわかりやすく解説します。日本語通訳（公演時に字幕）と資料をお渡ししますので英語が苦手な方でもご参加いただけます。

国際的な雰囲気になんとなく興味があるという市民の方々、若い世代の方々にも是非お聞きいただきたいと考えています。繁殖の研究と技術革新が今後の牛の産業の発展に貢献するような知見やアイデアを共有するため、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

20th ICAR 大会長、帯広畜産大学 特任教授 宮本明夫

#### お申込みについて

帯広市民大学HPまたは帯広市生涯学習文化課の電話にて受付

☎ 0155-65-4192

受付：土日祝除く平日9時~17時

HPはこちら



#### シンポジウムの内容に関する お問い合わせ

帯広畜産大学 特任教授 宮本明夫

✉ akiomiya@obihiro.ac.jp

# 第20回国際動物繁殖学会 (20th ICAR 2026 in Obihiro) プレシンポジウム

International Congress on Animal Reproduction (ICAR) は非営利の国際組織であり、1948年に動物繁殖と人工授精に関する第1回国際研究集会在開催され、その後、動物(家畜、野生動物、伴侶動物等)の繁殖学や生体工学全般に加え、生理学・病理学を含め、最新の情報を扱う集会として4年毎に世界各地で開催されています。毎回60カ国以上より1000人超が参加する当分野の最大規模の集会であり、動物繁殖学の世界の進歩のアップデートを共有するオリンピックと言われていました。

第20回の集会が、2026年6月22日～26日に帯広にて開催されます。日本はもとよりアジアでは今回が初開催となります。

日本有数の畜産地域で開催されることから、畜産現場で繁殖に関わる技術者、特に次世代に向けての情報発信を目的に、ウシおよびウマの繁殖に関するプレシンポジウムが開催されます。

プレシンポジウムでは、日本国内の技術者の方々が参加しやすいよう、日本語対応を予定しています。日々の業務に活用できる国際レベルの最新情報を得る良い機会となりますので、ご参加お待ちしております。

第20回国際動物繁殖学会 (20th ICAR 2026 in Obihiro)  
プレシンポジウム (ウシ) 帯広市 (帯広市民大学講座) 共催予定

2026年6月22日 (月) 13:00～16:30

会場：帯広市民文化ホール (大ホール) 北海道帯広市西5条南11丁目

言語：英語・日本語 (アプリを用いた日本語字幕表示を検討中)

シンポジウムタイトル

「乳牛への肉牛受精卵移植」

- ウシの繁殖に関する研究と技術進歩が畜産産業に与える影響

オーガナイザー：大澤健司 (宮崎大学、公益社団法人・日本繁殖生物学会 理事長)



## プログラム

世界における「牛肉と酪農」技術と市場の成長 - 課題と展望

アラン・ケリー (ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン、アイルランド)

受精卵移植と繁殖技術：現状と将来

パトリック・ロナーガン (ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン、アイルランド)

繁殖用雌ウシを必要としない未来に向けて

坂口謙一郎 (岐阜大学、日本)

「日本黒毛“和牛”受精卵の乳牛への移植：Wagyu on Dairy」の現状と展望

阪谷美樹 (農研機構、日本)

## パネルディスカッション

### 【開催趣旨】

最近、Beef on Dairyという言葉が聞くようになりました。牛の繁殖の世界では2010年代後半から性選別精液が普及して雄のホルスタイン子牛供給が減りました。肉用素牛市場の構造が変化した結果、北米、特に米国では乳用牛に肉用種精液を人工授精して産まれる交雑種子牛の生産頭数が急増しました。同時に、ホルスタイン雌牛の供給も不足し、その価格が急騰する状況が生じています。一方、海外での和牛人気は高まっており、日本ではホルスタイン牛への黒毛和種胚の移植が普及し、和牛牛肉の輸出高も増加していますが、子牛価格の変動等、将来の見通しは不透明です。

現在の世界と日本の状況を踏まえ、今後10～20年の畜産産業の展望と、最新の生殖技術が産業に与える影響について議論する機会が必要です。また、これからの産業と関連する学界を支えていくことになる若い世代が将来の目標や夢を語る場も必要です。本シンポジウムは、国内外の技術者や獣医師等の実務者、研究者、および牛の繁殖に関わる全ての参加者にとって最新の技術革新や新たな研究成果に関する有用な情報を提供すること、そして参加者同士が今後の展望について活発な情報交換をすること、そして人的ネットワークが広がることを目的としています。すなわち、学術的な話題を学者間だけで議論するのではなく、産業界、生産現場に関わる関係者との対話を促すとともに、次世代の人々にメッセージを伝えることが本プレシンポの狙いです。

本プレシンポでは「牛肉と乳業」の概要 (グローバルな視点から見た牛肉産業の展望)、これに関連するART (牛産業界における生殖補助技術) の最新の研究動向、そして黒毛和種牛の品種改良の現状と展望に関する話題を提供します。

このテーマに関して既に関わっているベテランや中堅の関係者はもとより、これから関わろうとしている、あるいはまだよく分からないが何となく興味があるという若い世代の方々にも是非参集していただきたいと考えています。繁殖の研究と技術革新が今後の牛の産業の発展に貢献できるような知見やアイデアを共有することを目指します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

宮崎大学農学部  
大澤健司

\* 大会ホームページ： <https://icar2026.jp/>

\* お問い合わせ： [icar2026@reproduction.jp](mailto:icar2026@reproduction.jp)

